

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

《令和4年 新年のご挨拶》

P 2～3. 会長、副会長、事務局長のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P 3. 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園

P 4～8. 仙台楽生園ユニットケア施設群
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、有料老人ホーム創快館、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンター、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 8～9. 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P 9～10. 幼保連携型認定こども園仙台保育園

P 10. 柏木保育園

P 10～11. 富沢わかば保育園

P 11. 中山保育園

P 11. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P 11～12. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P 12. 仙台理容美容専門学校

《 令和4年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会 長 菅田 賢治

皆さん、明けましておめでとうございます。令和になって3度目のお正月は、天候にも恵まれそれほど寒くもなく、穏やかでゆっくり過ごされた事と思います。

社会福祉法人仙台市社会事業協会は今年で創立94年を迎えます。まもなく創立100年を迎えようとしている現在、その経営と運営のありように法人幹部職員は知恵を出し合っている状況です。

さて令和4年は、母子生活支援施設仙台つばさ荘と柏木保育園の建物が築43年を迎え、また、母子生活支援施設仙台むつみ荘が築37年を迎える年になることから、改築計画を事業所の施設長や幹部職員を交え、仙台市行政とも相談しながら進めていきたいと思っています。

それから、令和4年度に向けても、新たな事業計画を各事業所で作成頂きながら進めていきたいと思っておりますので、重ねて職員の皆様のご協力ご助言、宜しく願いいたします。

副会長（業務執行理事） 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。

昨年の6月の理事会に於いて、副会長に任命されました仙台理容美容専門学校校長の小野寺光弘と申します。私は、昭和59年4月に当校の教員を拝命し、今年で勤続39年目を迎えます。長年当法人にお世話になった恩返しのつもりで、微力ではありますが、皆様の力をお借りしながら精一杯務めさせていただき所存で御座いますので、何卒よろしく願い申し上げます。

各施設の職員の皆様には一昨年から続く新型コロナウイルス感染症下の大変な中、日頃より感染防止対策に神経を使いながらお仕事をされていることに対し、心から感謝申し上げます。感染者数も大分落ち着いてきたとはいえ、新たな変異株（オミクロン株）の感染も心配されるため、まだまだ予断を許さない状況ですが、今年も継続して感染防止対策を講じながらお仕事をされるようお願い致します。

さて、皆様もご承知の通り、当法人は高齢者福祉事業・児童福祉事業・教育事業・収益事業から成り立っていますが、主に共通して言えることはどの事業も「人」と関わる仕事をしているということです。職員の皆様は日頃から心掛けてお仕事をされていると思いますが、この「人」と「人」との関わりを大切に、いかに思いやりをもって接し、信頼関係を築いていくか、それを第一に考え毎日お仕事をしていくことが、将来の当法人の更なる繁栄に繋がるものと考えています。

新しい年を迎え、今年も良いこともそうでないこともあると思いますが、健康には十分留意され、大変な時こそ笑顔を保ち、力を合わせて困難を乗り越え、それぞれの職場を盛り上げていただくことをお願いいたします。

今年1年、職場や職員皆さまにとって幸多いことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

事務局長 小野寺 信也

新年の抱負、新しいシンボルマークも決まり、仙台市社会事業協会創立100周年を見据え、法人の長期目標であるブランド力の強化、法人のPRに力を入れ、人材確保に努めて行きます。

法人の運気を上げるため、シルバータウン内の環境整備に力を入れて行きたいと考えております。昨年、シルバータウン内の門柱撤去、掲示板の取付を行いました。今年は、植木の伐採、来年は、駐車場の整備を順に行っていく予定であります。

昨年、辻本郷税理士事務所の協力を得て、長期資金繰り計画、10年間のシミュレーションを作ってもらいました。それを参考資料として、経営状況を分析し適切な予算配分、人員配置を行い経営の健全化を図ります。それと並行して、法人の長期計画（10年間の未来予想図）を作成しました。今年は、それを活用して行きたいと考えております。法人内の役職員だけでなく、専門家の意見を取り入れ、経営者である役員と施設長が協力し取り組んで行きます。また、他法人が行っているように、施設会計から本部会計へ効率的に繰り入れが行われる仕組みを作り、現金の流れを正常にしなければなりません。今後、解体、建て替を行う際、潤沢な資金が必要になります。施設会計から、本部会計に繰り入れ、蓄えた資金を法人本部から、建て替え、修繕費用として支出出来る仕組みを作っていきます。また、導入した勤怠ソフト、給与ソフトからのデータを検証し、超過勤務を出来るだけ少なく、有給休暇が出来るだけ取得しやすい、職員が仕事をしやすい環境作りを進めて行きます。

以上、ご理解いただき、今まで以上の協力をお願い致します。

養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

新型コロナウイルスが発生してから、日本では感染拡大の大きな波が5回も押し寄せました。政府は感染対策と経済活動を両天秤にかけて、アクセルとブレーキ操作を繰り返して来ました。高齢者福祉施設において感染対策と天秤にかける必要があるのは、利用者の生活の質（QOL）であると思います。感染防止を理由に外出や面会を過度に制限すれば、人権侵害に当たるとの声も聞かれます。行動制限を長く継続すれば、高齢者は身体機能の衰退や認知症の進行などの弊害が生じます。昨年は感染防止のブレーキ操作に重きを置きQOLの回復が足踏みした一年でしたが、今年は利用者の生活の質の向上を目指してアクセルを踏み込みたいと思います。

新型コロナウイルスは浴室の大規模改修工事と特殊浴槽購入の計画にも影響を及ぼし、昨年の予定を先送りしました。これは浴室や入浴機器の老朽化と利用者の重介護化に対応するものであり、利用者の快適で安心な入浴サービスの提供と職員の負担軽減を図るため今年是最優先に進めます。そして近い将来、職員の業務効率向上のために利用者居室に見守りセンサーとカメラを設置する等のICT化を進めていきます。

長生園は人員基準を大きく上回る職員数を配置し、残業時間の少なさと有給休暇の取得率の高さにおいて、法人内事業所で上位にあることを自負しております。今後も利用者にとって暮らしやすい施設、そして職員にとって働きやすい職場を目指したいと思います。本年もご指導ご支援の程、どうぞよろしくお願い致します。

《 令和4年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負 》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年同様、今年も新型コロナウイルスで始まり新型コロナウイルスで終わった一年でした。とくに今年は、非常事態宣言やまん延防止等重点措置の発出・終了が相次ぎ、施設運営に大きな支障をもたらしました。新型コロナウイルス対策委員会を月に1～2回は実施し、感染予防対策やクラスター発生時の備え、段階的緩和の目安について協議を行いました。

経営面においても新型コロナウイルスの影響は大きく、昨年同様、利用控え等が収まらず、全サービスの稼働の回復が中々進みませんでした。そんな中で、昨年、収入が激減したのを受けて、加算の取得、運営の見直し、節約の徹底、人件費の削減の4柱を中心とした経営改善計画を作成して実践してまいりました。半年間の前年比は1,656万円増でしたが、建設時の借入額が大きいので、まだまだ収入を増やしていかなければなりません。

施設群全体では様々な工夫を行ってはおりますが、法人からの協力も不可欠ですので、連携して対応できればと考えています。この新型コロナウイルスの終息はまだ見えませんが、今後も職員が一丸となって経営改善に取り組んでまいります。また、コロナ禍の中でも、利用者の尊厳と希望を大切に、自分たちでできる最大限のサービスを提供してまいります。

《 各事業所 新年の抱負 》

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型（多床室）施設と、平成17年12月に開所した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型（個室）施設の特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設）です。従来型はこの4月に35周年、ユニット型（個室）施設は、昨年の12月1日をもちまして、おかげ様で16周年を迎えることができました。

ここ数年来、“介護職員の確保”に苦悩している現実が長く続いております。ハローワークに求人を出しても募集がないため人材紹介で採用するなど、介護人材を確保することの難しさや人件費の増額による運営の厳しさも続いています。

運営面ではこうした状況を鑑み、水光熱費やオフィス関連のコスト削減に積極的に取り組むとともに、ユニットケア施設群のメリットを活かして、在宅サービス・入所施設との連携強化によりスムーズな入所と適正な人員配置を行い経営の健全化を図ってまいります。

サービス面では、一昨年同様、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策により、ご利用者様には様々なご不便をおかけいたしました。そのような状況の中でも制限付きの面会や規模縮小などによる行事の開催を実施することができました。また、ご家族様や関係者の方々には、コロナ禍での事業にご理解をいただきまして改めて感謝申し上げます。

今後については、新型コロナワクチンの3回目の接種に必要な情報収集・準備に向けての取り組みと併せ、一部の地域で感染が急速に広がっている「オミクロン株」等の変異ウイルスへの備えも実施してまいります。引き続き職員一人一人が「3蜜（密閉・密集・密接）を避ける」、「マスク着用」、「手洗い・手指衛生」、「換気」などの基本的な感染対策をこれまで通りに実践して、感染予防に努めてまいります。

最後に要介護者を支える施設として、安心・安全な“生活の場”の構築と、選ばれる施設づくりを目指して、社会貢献を推進してまいります。

葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

令和3年における地域交流事業の年間延利用者数は、喫茶レストラン「茶楽」が約2,200人、展望風呂「天空館」は約1,500人、理美容室「g gバーバー・美楽る」は約850人、葉山予防リハビリセンターは0人、葉山の森おもちゃ図書館は0人、地域交流プラザホールは0人、ボランティア活動センターは約300人、オレンジカフェは約24名の皆様にご利用いただきましたが、喫茶レストラン以外は軒並み昨年より減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、施設内の感染症対策を優先した結果、臨時休業や利用の制限などの対応を余儀なくされました。

そのような情勢下ではありましたが、理美容室や喫茶レストランでは、新型コロナウイルス感染症を正しく理解するように努め、施設と協力しながら創意工夫し感染症対策を万全に整えた上で、一部は外部からの利用も含め営業を再開しました。先の事は不透明ではありますが、今後も適切な感染防止策に取り組みながら、新しい生活様式に沿った地域支援・地域交流の在り方を模索していきたいと思っております。

施設ご利用者様、地域の皆様に楽しく安心してご利用いただくために、with コロナ、after コロナに対応した新たな企画やサービスを展開し、地域支援・地域貢献に重点を置いた内容の充実に努め、共生社会の実現の一助になるように努力してまいります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

コロナ禍におけるグループホーム楽庵は、昨年同様に「忍耐」の1年であったと感じております。スタッフ1人1人の努力と感染予防対策の継続の結果、感染者を出すこともなく新しい年を迎えることができ安堵しております。また、ご家族様や関係者の皆様には多大なるご理解とご協力をいただきまして大変感謝しております。

楽庵では感染予防に努めながらも、入居者様が笑顔で安心して生活ができるよう工夫してまいりました。ご家族の皆様においても、不安な日々を送っていたことと思っておりますが、楽庵でのご様子を電話やお手紙、写真等で報告をさせて頂きました。また、10月には面会の制限緩和も行ったことにより、より安心していただけたように感じております。

この状況に「慣れる」ことなく感染予防を継続しながら、今まで実施することが出来なかった外出行事やイベントなどの開催も検討していきたいと思っております。

また、これまで不十分だった入居申込者の意思確認を行い、入居に関してもユニット施設群の他事業所との連携によりスムーズに実施することができました。令和4年においても継続して実施出来るよう努めてまいります。

新しい年を迎え、感染予防対策の継続・徹底を実行し感染者を出さない事はもちろんのこと、入居者様やご家族様が安心できる1年にしてまいります。また、スタッフにとっても働きやすく、笑顔でケアができる事業所を目標に努力してまいります。

葉山地域包括支援センター

所長 佐々木 薫

仙台市では、令和3年度より3年計画で新たな「介護保険事業計画」を実施しています。仙台市の基本目標として「高齢者が健康で生きがいを感じながら社会を支え続けるとともに、地域で安心して誰もが自分らしく暮らす事が出来る社会の実現を目指す」事を掲げています。目

標に基づきながら、当センターでも活動してまいります。

具体的には、①健康寿命を延伸するとともに社会で活躍し続けるために、介護予防・健康づくりに積極的に取り組めるよう推進していきます。②ともに支え合い安心して暮らし続けるために、高齢者の尊厳保持に向けた虐待防止や成年後見制度などの権利擁護の取り組みを進めます。また医療や介護などをはじめとする様々な専門職や関係機関などの連携を図っていきます。

さらに自主グループへの後方支援などを図っていきます。③認知症の方が希望をもって自分らしく暮らし続ける事が出来る取り組みについては、地域における認知症に対する理解を広め、認知症や家族を支える体制づくりを進めます。

また、当センターでの高齢化率は24.2%で仙台市平均と概ね同様の傾向となっておりますが、8050問題や精神疾患を抱えたご家族への対応など、多種多様な相談が増加傾向にあります。コロナ対策を充分に行いながら、3職種を含めスタッフ一同、「ここで暮らしていきたい」と思えるような地域づくりを目指してまいります。

楽園デイサービスセンター

所長 天野 博美

コロナ禍における楽園デイサービスセンターは、一昨年と同じように感染予防に努めながら安心して利用していただけるような事業所を目指して活動を継続して参りました。事業所から「感染症を出さない」ことを目標に、感染予防に努めた1年でした。長く続く感染症にマンネリ化してしまう場面も多くありましたが、その時々での感染症の状況に合わせながら、ご利用者が楽しく過ごしながら認知症を予防、緩和できるような活動内容を都度検討して参りました。コロナ禍において『何もできない』のではなく、『何ができるのか』をいつも考えていました。外出行事は少人数で実施することで季節を楽しんでいただいたり、大好きな歌の会は中止していましたが、ピアノコンサートを聴いて楽しむ行事として再開することができました。コロナ禍において、活動の制限が厳しい中何ができるのかを職員が考えながら実施し、楽しんでいただけた1年だったと思います。

外部に向けての活動については、ご家族向けの勉強会や認知症サポーター養成の活動も、その時々での感染の状況を見ながら再開することができました。コロナ以前に戻るまではまだ時間を要すると思いますが、活動再開できることを期待しながら、準備を整えてゆきたいと思います。

経営状況の改善に向けた取り組みとしては、コロナ禍ではありますが、今できることを最大限実施できたと思えます。外部への営業活動は勿論、ユニットケア施設群内での協力体制の強化に力を注いでまいりました。様々な工夫を凝らしながら利用者数を増やす努力をしています。

新しい年を迎え、今年も同じように感染症を出さないことを目標にしながら、「いこいの一時、なごみの空間、楽しみの園」をご利用者様、ご家族様に提供できるような事業所作りに力を注いでまいります。

葉山ケアプランセンター

所長 天野 博美

昨年もコロナ禍における状況は厳しく、一昨年に引き続き感染予防に努めながら在宅のご利用者様への支援を継続してきました。パンデミックも2年目となると、職員も少しずつ状況に慣れ、心配なことも減ってきますが、イレギュラーなことが起こると都度確認を繰り返しながらご利用者が安心して在宅生活を継続できるように支援に努めてまいりました。

昨年センターとして力を入れて取り組んできたことの1つに、ユニットケア施設群内の連携の強化があげられます。コロナ禍で各事業所の運営状況が厳しく、我々の事業所で利用者

数を増やすことで、施設群内の各事業所への紹介を増やすことを目標に掲げて取り組み、連携の強化を目指してまいりました。幸いなことに取り組みの成果は表れ、施設群内の各事業所への紹介も増えてきております。

また、コロナ禍において外部研修も形を変えて実施されることが多くなり、オンライン研修の環境に慣れてゆくことを活動計画に組み込み、実施してきました。ICTの環境に不慣れな職員も多くまだまだ勉強中ではありますが、今後も続くと予測されるオンラインの活用に慣れてゆきたいという意欲は高く、外部研修と合わせて自己研鑽のツールとして活用しゆきたいと思っています。

最後になりますが、昨年もユニットケア施設群の入り口にイルミネーションが輝きました。ご利用者様、地域の皆様、働く職員に安らぎの一時をお届けできたのではないかと考えています。昨年も掲げた通り変わりゆくものもあれば、変えずに続けてゆくものもあります。我々の仕事は、在宅で生活を続けるご利用者様とご家族が安心してサービスを受けられるようにマネジメントすることです。どのような状況にあっても、変えずに続けなければならないものを見極める力を養い、これからも地域の皆様に安心を届けられるようなケアプランセンターを目指してゆきたいと思っております。

葉山ヘルパーセンター（介護部門・障がい部門）

所長 天野 博美

ヘルパーセンターも新型コロナウイルスが感染拡大する中で、在宅介護を継続するご利用者様、ご家族様の力になれるように創意工夫を繰り返しながら、事業を展開して参りました。パンデミック2年目となっても、感染拡大する中でサービスの提供はそれぞれのご利用者様の状況が違い、その都度最良の方法を考えながら提供に向かいます。常に心配を抱えながらのサービス提供ではありましたが、1年無事過ごすことができました。

訪問介護事業所は、各種介護サービスの中でも、休止することができない事業所です。在宅で待ってくれるご利用者様がいらっしゃる限り、ヘルパーを派遣し提供に当たらなければなりません。その為、感染予防にも細心の注意を払っております。

昨年はこれまで長く続けてきた勉強会（常勤職員、登録ヘルパー）も再開することができませんでした。今年は状況を見ながら、勉強会を再開させたいと思っています。日頃単独でサービスを提供しなければならないホームヘルパーは、不安なことも多いと思いますので、勉強して知識を身に付けるだけでなく、仲間同士顔を突き合わせることでそれぞれの安心に繋げてゆける活動と考えております。

また、事業計画に掲げた「訪問介護員の育成」という項目についても進捗がみられない状況でした。今年は、職員の獲得と育成にも力を注いでゆきたいと考えております。

今年も新型コロナウイルスの感染流行は続くでしょうが、そのような中であっても、ご利用者様、ご家族様が、住み慣れた地域の中で安心して生活を継続できるようにお手伝いを継続して参ります。また、身近にいるヘルパーが在宅部門のつなぎ役となってゆけるように、研鑽を重ねてゆきたいと思っております。

住宅型有料老人ホーム 創快館

施設長 小船 正明

創快館は住宅型有料老人ホームに転換し1年が経過致しました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。

さて、一年を振り返りますと入居者様はコロナ禍のなか「緊急事態宣言」や「まん延防止等重

点措置」などの制限がある状況のもと、緊張感を持ちながら健康管理に努め、外出などは自粛した生活を送ってきましたが、ワクチン接種の実施や県内の新規感染者の減少など、全国的な落ち着きもあり、外出（移動手段・飲食）や面会など一部の制限を除いてはほぼ通常の生活を再開することが出来ました。今後は、一部の地域で感染が急速に広がっている「オミクロン株」等の変異ウイルスへの対策としても、引き続き「3蜜（密閉・密集・密接）を避ける」、「マスクを着用する」、「手洗いなどの手指衛生をする」、「換気をする」などの基本的な感染対策をこれまで通り実践し感染予防に努めて参ります。

運営面では、1名の空室を満床にすることに苦戦中であるため、今後も他事業所や外部機関との連携を図りながら早期に満床に出来るよう努力して参ります。また入居者様も介護や医療を必要とすることが増え、リスク管理が一番の重要課題となってきていますが、これからも基本理念である「創一自ら創造する」・「快一共に心地よい」・「館一住まいと生活」を職員が一丸となって提供し、安全で安心した生活ができる運営を目指して参ります。

沖野老人福祉センター

館長 植木 祐子

あけましておめでとうございます。

昨年は、1月に併設の沖野デイサービスセンターでの新型コロナ陽性者発生に伴い6日間の臨時休館、その後、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、前年度に引き続き3月26日～5月11日迄市内全老人福祉センターが臨時休館し、5月12日から事業再開致しました。

そのような中で、10月には当センター及び併設の市民センターと児童館を会場に、感染防止対策を講じながら市民活動発表会が開催され、多くの市民の方々に来館いただくことができました。作品展示で参加した利用者の皆様にとって、日頃の練習や活動の成果を披露する機会が持てたことは何よりの喜びであり、感染症対策で様々な制約・制限を強いられる生活の中にあって、大きな励ましになったことと思います。

また、12月には市内の老人福祉センターの施設利用ルールの見直しも図られ、長く休止していた将棋・麻雀・カラオケ等の活動について、令和4年1月より再開の運びとなりました。変異株の感染状況等も踏まえ感染症拡大防止対策は徹底しつつ、できるだけ多くのサークルや利用者の皆様に安心・安全に活動いただけるよう、参加人数や活動時間等工夫しながら進めて参りたいと思います。

当センターは開設から30年を超え、建物の長寿命化を図る為、令和4年度に約10ヶ月に及ぶ大規模改修工事を予定しております。工事期間中は全館休館となりますが、出前講座等の自主事業を継続して実施する予定でおります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

沖野デイサービスセンター

所長 植木 祐子

令和3年の年明け早々、当センターにおいてもコロナ禍により1名の陽性者が発生し、臨時休館を余儀なくされました。幸いにも感染拡大に至ることなく短期間で再開することができましたが、感染症防止対策の徹底が最優先のスタートとなりました。

このような中でも、昨年は大勢の利用者の方々にシルバー創作展や沖野市民活動発表会にご参加いただき、作品を出展することができました。展示期間中は、感染症防止対策を徹底の上、

少人数のグループで会場に足を運び、素晴らしい作品の数々に大いに刺激を受けて帰ってきました。また、利用者の皆様には、花壇の草取りや野菜作り等の園芸活動に楽しみながら参加していただいたり、季節毎のホールの装飾作り等にもご協力いただき、利用者の皆様も職員も、共に笑顔の絶えない時間を過ごすことができました。

当センターは、介護保険制度創設以前の平成3年に事業を開始して30年余り、地域の皆様にご利用いただいて参りましたが、今年3月末をもってサービスを終了致します。昨年7月にご利用者様、ご家族の皆様、ならびに各居宅介護支援センター等関連事業所の皆様に説明会を実施致しましたが、多くの方々よりサービス終了を惜しむ声をお聞かせいただき、深謝申し上げますと共に、ご利用者の皆様には、他の事業所へのサービス移行等について、ご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。利用者の皆様の他事業所への移行が進む中で寂しさも募りますが、3月迄の残りの期間、別れを惜しみつつ、一日一日を大切に、たくさんの思い出を残せるように過ごして参りたいと思います。

沖野居宅介護支援センター

所 長 植木 祐子

昨年は、併設の沖野デイサービスセンターにおける新型コロナウイルス感染症陽性者発生に伴い年明けの1月早々沖野三施設全館が臨時休館となりました。複合施設として、このような非常時はもとより常日頃から連携強化に努めることが重要、と再確認致しました。今後、居宅介護支援センターにおけるBCPについて実践に即して内容を精査し、定期的な訓練等を通して備えたいと思います。

事業所の経営面では、管理者兼主任介護支援専門員1名体制であること等から厳しい状況にあります。制度改正に伴い、所長が事務員を兼任することで、前年度を上回る利用者数が維持できました。その要因として、困難ケースや急を要する相談にも積極的に対応し、地域住民や関係機関からの信頼獲得に向け努力を積み重ねてきた結果と評価すると共に、コロナ禍によって学びの機会が制限される中ではありますが、オンライン研修等を積極的に活用し、今後も事業所として更なる成長を目指し、研鑽を重ねて参ります。また、事務作業や経理事務に限らずケアマネジメント業務についても所内の連携強化を図り、時間外労働削減等ワーク・ライフ・バランスを意識して取り組みたいと思います。

令和4年3月末で併設の沖野デイサービスセンターがサービスを終了し、令和4年度には沖野老人福祉センターの大規模改修工事を予定しております。当センターも事業所の一時移転等に向け、滞りなく準備を進めて参ります。

幼保連携型認定こども園仙台保育園

園 長 土屋 志津子

あけましておめでとうございます。

仙台保育園は令和3年4月1日より幼保連携型認定こども園になり、新たなスタートを切りました。これまでの仙台保育園の良さを生かしながら認定こども園として生まれ変わった訳ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、日々の生活や行事を大きく制限せざるを得ない状態となりました。しばらくは我慢が必要になるとは思いますが、認定こども園2年目の今年は、昨年の経験を生かしながら認定こども園として成長していくとともに、これまで通り一

人ひとりを大切にしたいきめ細やかな教育と保育を行い、園児の最善の利益を守りながら、より主体的に考えて活動できる子ども像を目指していきたいと思います。

これまでと変わらず、感染症対策をしっかりと行いながら、今、どうすれば何が出来るかを職員皆で話し合い、考えて工夫していきたいと思います。また、同じ施設で休日保育、病児・病後児保育を行っているからこそ、お互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にする保育が必要とされます。子どもたちにそういう大人の姿を見せつつ、基本に立ち返り子ども優先という姿勢を忘れずにいたいと思います。子ども達が楽しく過ごし明日も来たいと思える場所、保護者が大切なお子さんを安心して預けることが出来る場所であるよう、職員一同、心をひとつにしていきたいと思います。今年も子ども達、保護者の方々、そして職員も笑顔あふれる1年となるようにと願っています。

どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

柏木保育園

園長 高野 誠

新年あけましておめでとうございます。

当柏木保育園の昨今は0歳児が予定定員まで埋まらずにスタートという事が何年か続いているものの年度末には多少なりともプラスで過ごしてきております。

しかしながら、仙台市では令和5年あたりから少子化の影響により保育園児数の減少が見込まれていると言われております。それは、少なからず今後の保育園の経営に影響を及ぼすに違いありません。

子どもの絶対数が減るという状況下での保育園経営を考えると何とかなるというより何とかしなければという結論に至ります。今まで以上に経費節約を意識し、保護者が入園を希望する保育園にならなければ園として経営が立ちいかなくなるという事です。つまり、入園希望児が多いときは、第5希望でも入園してきていたものの園児数が少なければ第1希望に名前が上らなければ入園には結びつかないという時代がそこまで来ているという事です。

これからは、そこをどう職員に意識させ保育の質に結び付けていくかが今後の大きな課題と言えるでしょう。

ハード面での改善は、すぐに出来てもソフト面は今のうちから意識していく事が必要です。職員の皆様の力を借りながらそれぞれが知恵を出し合い園児も職員もワクワクしながら保育を楽しめるようにしていけたらと考えています。それが、園の満足度につながり入園申し込み者が増えることを祈るばかりです。

どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

富沢わかば保育園

園長 木村 裕子

明けましておめでとうございます。

昨年は幼い子ども達が痛ましい事故に巻き込まれるという報道が多くありました。新しい年を迎えて改めて、保育園での安全対策等を園内研修で職員としっかりと共有しながら新たな気持ちで保育に当たっていきたいと思います。

又、昨年は富沢わかば保育園が開園して30年目を迎えた年で喜ばしい反面、年々園舎の老朽化が進みその都度修繕をしながら今日に至っています。

おかげ様で全保育室の床修繕工事が無事に終了して部屋全体明るい保育室に生まれ変わりました。又、ホームページのパンフレットもリニューアルしましたのでご覧になってください。

今年も園庭の遊具の一部を新しく変える計画も予定しております。一昨年から続いているコロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種、施設の衛生管理、手指消毒、マスク着用の励行、こまめな換気、三密を回避等様々な予防対策を行ってきました。特に、三人行事(夏まつり、

運動会、発表会)に関しては職員と色々と話し合いを重ね、工夫しながら取り組みました。

今年こそ、コロナウイルス感染が終息して皆が笑顔で過ごすことができる年になればと願っております。本年もよろしく申し上げます。

中山保育園

園長 庄子 美智子

新年あけましておめでとうございます

令和4年の年が明けて皆様方、穏やかに過ごしのことと思います。

昨年令和3年は、新型コロナウイルスの発生から2年目を迎え、度重なる感染拡大の波を経験し、でき得る感染拡大防止・予防をしながら一日一日を過ごしてきたように思います。

先が見えない状況で一刻も早くワクチン接種ができるようにと職員の勤務や休みの調整に追われる日々でした。おかげさまで当保育園は新型コロナに罹ることもなく、新しい年を迎えることができました。これも保護者の方々をはじめ、地域の方々のご理解とご協力があったからこそだと感謝申し上げます。ありがとうございます。

昨年は、手探りだった一昨年を振り返り、感染予防・防止をしながらも保護者からの希望をできるだけ取り入れる形で保育ができないか検討をしてきました。運動会や遠足、食育等実施することが出来、保護者からは感謝の声が寄せられています。

令和4年は今後も先が見えない日々は続きますが、子どもにとって、保護者にとってより良い保育園運営を進めていきます。

また、中山保育園は今後、国や仙台市の動向を見据え、こども園への移行を考えております。こども園への移行準備や申請等、皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

仙台つばさ荘

施設長 菅田 賢治

新年、明けましておめでとうございます。

平成28年に児童福祉法が改正され、その理念が大きく変化いたしました。それは、家庭養育を最優先とし施設養育は、最終手段と位置づけられたのです。母子生活支援施設は、戦後一貫して家庭養育のなかで、養育される子どもと養育を行う母親への支援を進めてきました。現在、都道府県では社会的養育の推進計画の策定を終了し、その計画推進に向けて動いています。仙台つばさ荘も昨年に引き続き今年も、その活動を強めてまいりたいと思います。また日々の支援事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。

仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

明けましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルス感染症に悩まされた一年ではありましたが、当たり前の感染対策を実施していれば恐れることはない学びました。施設内行事も感染対策を行いながら出来る範囲で実施し、2年ぶりの行事に子ども達、お母さん方に職員も皆で楽しむことができました。今年も、どうすれば行事を実施できるかを探りながら開催していきたいと思っております。

入所世帯の状況は様々ですが、今日の前で起こっている事実をよく見て、それには何が必要

かを考える姿勢を大切にします。お母さん方や子どもたちと日常の会話を大切にし、子育てや仕事、学業の大変さや子どもの成長を分かち合いながら過ごしやすいむつみ荘づくりに努めてまいります。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎え強く願うことは、今年こそ新型コロナウイルス感染症が収束して、普通の生活に戻ることです。一昨年から続く新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、昨年も学校内外の行事はその影響で中止や延期、または、内容を変更しての実施等の対応を取らざるを得ない状況でした。それでも、感染対策をとって実施可能な行事については極力進めることを前提に取り組んできました。また、学生たちの大きな目標でもあった「理美容甲子園」も2年連続で中止になり、大会出場の夢が絶たれた学生たちは大きなショックを受けましたが、その後、宮城県内の理美容学校が協力して「宮城県理容美容学生技術大会」を開催しました。学生達にとっては気持ちを切り替え、新たな目標に向かって取り組むことができた大会になりました。今年は、「理美容甲子園」が11月に大阪で開催されることが決定し、その予選大会である東北地区大会が7月に岩手県で開催予定となりました。先輩たちが叶えられなかった思いを胸に、全国大会出場、そして上位入賞を目指して、しっかり技術指導していきたいと思えます。

さて、令和4年度入学者については、新型コロナウイルス感染症の影響によって大きな打撃を受けた業種からの進路変更もあり、昨年並みの入学者数が見込まれる予定です。しかし、今後、新型コロナウイルス感染症が収束に向かうことで、入学者数が減少することが十分考えられるため、募集活動は今後も更に強化していきたいと思えます。

今年も「教育内容の充実」、「学校環境の整備」、「広報活動の強化」の3つに重点をおいて、教職員一丸となって頑張っていきたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。